

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 牛久二小

2013年11月11日発行

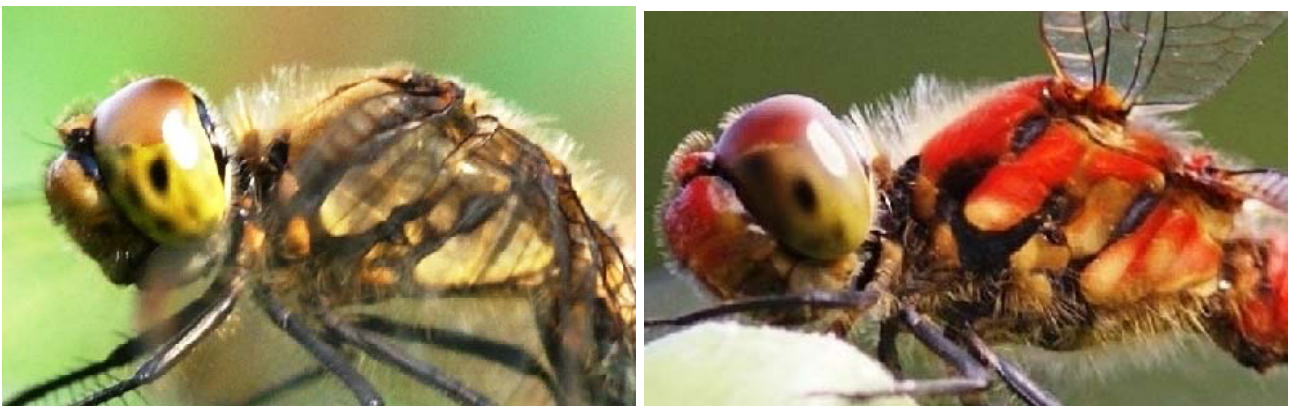
＜ 秋の生きもの観察 ②トンボ ＞

11/6、牛久二小4年生と秋の校庭観察。今回はトンボのなかまの紹介です。



「赤とんぼ、つかまえた～ッ！」とうれしそうに見せてくれたのは、アキアカネ(左)。枝先にとまっているのも(右)。

秋のトンボといえば、赤とんぼですね。でも、胸のもようなどよく見ると、この近辺でも何種類かいることが分かります。今回、校庭で観察できたのはアキアカネ。



アキアカネのオス(左)とナツアカネのオス(右)。胸のもようや、赤くなる部分がちがう。

アキアカネに一番よく似ているのはナツアカネ。別の日に写したのですが、上の2枚の写真で、ちがいを探してみましよう。左がアキアカネで、右がナツアカネです。胸の3本の黒い線のうち、まん中の線がアキアカネでは上に向かってだんだん細くなるのに、ナツアカネではいきなりスパッと切れたようになっています。また、成熟したオスをくらべると、ナツアカネでは胸全体と顔まで赤くなるのに、アキアカネは腹部と胸部のはねやあしのつけ根が赤くなるだけです。この辺では、11月になるとアキアカネの方がずっと多く見られるようになりますね。

また、産卵のし方もちがっていて、どちらもふつうはオスとメスがつながったまま産卵するのですが、ナツアカネでは空中から卵をばらまくように産み落とし、アキアカネではメスの腹部の先を水面に打ち付けて産卵します。10/30の下見の時には、アキアカネの産卵を観察できました。

トンボの仲間は大部分が幼虫(やご)で冬を越しますが、赤とんぼの仲間は卵で冬越しします。中にはオツネトンボやホソミオツネトンボのように成虫で冬を越すものもありますが、ごく例外ですね(24年度第43号参考)。それにしても、校庭の水たまりに産まれた卵は、その後どうなるのでしょうか？



アキアカネの交尾(①)と打水産卵(②~④)。①は2012年10月19日、②~④は下見の10/30にともに二小校庭で撮影。



こちらにも例外的に卵で冬を越す、**オオアオイトトンボ**。胸は金緑色にかがやいて美しく、アオイトトンボの仲間には共通ではねを「ハの字」に半開きにしてとまるのが特ちょうです。下見の時には、ビオトープでオスとメスがつながって産卵しているようすも見られました。このオオアオイトトンボや赤とんぼの産卵が観察されるようになると、私は「冬も近いな」と秋の深まりを感じ、今年一年をふり返ります。皆さんは、何で「秋」を感じますか？【理科支援員：宮内】はねを「ハの字」に半開きにしてとまり、金属のように光って美しいオオアオイトトンボ。オスとメスがつながったまま産卵することが多い(左：10/30撮影)。